

なみ

10月号

vol. 116

・当番の方は、一度花を確認して
枯れてから交換して下さい

地蔵当番

巻頭特集

いくさの軌憶

—むこうとこ—

「お地蔵さんを大切に」
北津守4丁目付近にて撮影

いくさの軌憶

—むこうとここ—

僕たちはずいぶん長いあいだ空気のような平和の恩恵に与ってきた。だから、それがいない状態をうまく想像できなくなっている。71年前、僕たちの国は他国と戦争をしていた。そしていまも世界中で戦争に苦しむ人々がいる。紛れもない事実であることは知っている。でも自分事にはならない。この国が彼の地で戦争に巻き込まれても、ピンとこないかもしれない。戦争ってなんだ？ 平和ってなんだ？ そんなモヤモヤを解きほぐそうと、いまに続く記憶の軌跡を辿って、むこうとここの「軌憶」を考えてみたい。

(いくさプロジェクト:田岡・飯島・西田・若松・佐々木)

東村にかけては『やんばるの森』という広大な原生林が続く。この森には天然記念物であるヤンバルクイナや、多くの野生生物が生息し、貴重な自然環境を形成する。車窓からヤンバルクイナを眺め、到着後すぐ伊江川の水底まで見える清流に浸かり、上流に向かって歩いてみると、赤トンボ、ミズスマシ、川岸に咲く花々に飛び交うクロアゲハの群舞や、小さなタニシやカニたちを見つけた。

しかし現在この一帯は、米軍北部訓練場であるヘリコプター着陸帯へ高江ヘリパッドVの移設が計画され、工事車両阻止の住民及び移設に反対する人たちが連日抗議を行う。私は本年7月21日、沖縄防衛局が再びこの工事に着手したことを小さな新聞記事で知った。辺野古基地への抗議は本土でも比較的周知のことだが、参院選で沖縄県の保守党現職が落選のすぐあと、防衛局が計画推進

の実力行使を始めたことは、現政権がさらなる威圧を見せつけたと思った。

ここでは、ヤマト(本土)に知られざるウチナー(沖縄)の現況の一端を知るため、高江の声を拾ったに過ぎない。

高江橋

8月22日6:30 A.M. 私たちの車は高江に到着した。すでに県道70号の高江橋を、移設抗議の人たちが次々と車で乗り込む。同時に防衛局や建設業者などの車両も混じり現場に侵入してくるので、抗議派たちが、それらの車を止め不審尋問などをする。あちこちで抗議の声。「防衛局の車を阻止せよ!」「カマボコ(護送車)を侵入させるな!」と叫んでいる。「安倍政権のやりたい放題だ。先日の不当逮捕もひどい」と支援者である中年男性は語る。

軌憶

沖縄返還の直前、私がバスポートを取り沖縄へ渡航して以来40数年が経つ。滞在中のある日、米軍基地の周辺で大きな爆発音に続き激震が起こった。黒煙が立ち空を暗くした。飛来した土石を浴び何が起こったのか、私は恐怖でその場を急ぎ脱出した。それが米軍の砲撃演習とあとで知る。当時20代の私が

暮らす地とは異なる沖縄を、この時体験し軌憶した。

沖縄へ

8月21日1:00 P.M. すぎ。覇空港に到着。レンタカーの手続き後、遅い昼食をとり沖縄自動車道から国道58号及び県道2号、70号を経由し、3時間後の午後6時、ようやく民宿のある国頭村楚洲に着いた。

沖縄県北東部の国頭村から

沖縄編その1
いつまで長い夏はつづくのか
—沖縄東村字高江から



今号と次号にわたって8月21〜23日に佐々木と若松が取材した沖縄県国頭郡東村高江のヘリパッド移設をめぐる現状について報告します。ただし、報告は取材日現在のものであること、また重複する部分があることを予めお断りしておきます。

7:30 A.M.「防衛局や全国の機動隊が動員されている」。名護市から来た中年の女性は、東京、大阪、福岡など各自治体から派遣される機動隊に対し、自治体別の抗議プラカードを用意し、機動隊の介入反対をアピールした。この日私が目撃した護送車のうち、和泉と大阪のプレートが半数以上だった。

この女性は、高江橋周辺のうっそうとしたイタジイ・スタジイ(ともにブナ科)の群生を眺めながら「ノグチゲラは天然記念物で、たいへん臆病な鳥です。小さな音にも反応する。この場所に基地などがあると、彼らはどこへ行ってしまうのか。群生したノグチゲラなどの巣となる植物体系が切り取られていく」と話す。このさなか、一般車両と防衛局の車の選別がデモ隊の側で行われ、防衛局の車には厳しい声で「撤退しろ」と叫ぶ。

うるま市から来た83歳の老人は、辺野古の問題以来、週1回はここに参加する。「沖縄は、米国が土地を取り上げ、暴力と強姦、差別の中で無視され続けてきた。もうこれ以上沖縄は黙っていない。労組や政党ではなく、民衆蜂起として市民が中心となって立ち上がり、一日でも長くこの場で抵抗するしかない。沖縄はもう戻ることができない」。この間も、デモ隊からシユプレヒコールが上がり、互いにスクラムを組み琉球歌を合唱する声が流れる。抗議参加者の総勢は60人ほどで半数以上が女性だ。

老人は続ける。「米軍は、学校などで日米協力の人的交流をしている。アメリカの配慮だが欺瞞」と話す。前日、伊江の砂浜でキャンプをしていた沖縄市内の少年たちと話しあった時「学校では1週間ほどの期間で、外国人子弟との交流が催される。言葉の壁があり、なかなかコミュニケーションが難

しかった」と話していたことを思い出す。

8:30 A.M. 抗議派リーダーが戦略を説明する。「機動隊や工事車両を阻止することで、工事の遅延や計画の変更をさせる。それが活動の眼目です。これから工事車両阻止のため、橋上の車両の位置決めをします」と車両の移動計画を話す。参加者たちは、数十台の車両を相互に近接させ道路を封鎖する。人車混然となる。

9:00 A.M. さきほど抗議派が、自分たちの活動に好意的発信をする琉球新報に連帯を伝えていた。そのことを琉球新報記者と話す。

「沖縄の抱えている問題について、報道していく気持ちは記者すべてが共有している。その方法は各自それぞれだが、この現場だけではなく、警察署にも行き情報収集をする。自分たちの現実を伝えていくことが大切だと思っている」と話

した。

9:20 A.M. 名護市から来た30代の女性は個人参加だ。「参院選挙後、怒りがあつた。行かなければいけないと思った」。大阪出身で20代前半の琉球大の女子大生。「現在休学中だが、高江は自分の問題だと思つて参加している」。両名の聞き取りをはじめた時、リーダーから「機動隊がくるぞー」という伝令が。戦闘開始の緊迫した中で聞き取りを中断。「参加者は車中に籠城するか、車体下にもぐりこんでください。くれぐれもケガのないよう。暑いので飲料の用意もー」と檄を飛ばす。参加者たちは車両間や荷台に上り機動隊に対峙する。

を仕掛け、車を移動し橋の通行を円滑にしてい。同時に座り込みや、車体下にもぐりこむ抗議者たちを、隊員総がかりで排除。護送車両間に設けた拘束場所に連行し、彼らが再び抗議行動に戻らぬよう多くの隊員たちが張番をする。

10:00 A.M. リーダーは機動隊指揮官に対し「隊長! 無理な排除をやめなさい」隊員を引かせなさい」と必死で呼びかける。機動隊は動じることなく、黙々と作業を実行する。ほとんどの人たちがごぼう抜きにされ、水分不足の人、強制排除に伴うケガ人も複数出た。

11:30 A.M. 車両及び抗議者の排除が終わり、拘留されていた人たちも解放された。同行した若松(次号担当者)もその中に。「1時間30分もの間苦勞でした。おかげで工事を遅延させました」。リーダーはスピーカーを手に終結を宣言し「明日もまた運動を展開する」

9:30 A.M. 機動隊の隊列がこちらに向かってくる。「橋の上なので市民には横暴なことはいらないように」と抗議派のマイクが怒鳴る。車両バリケードにはレッカー隊がジャッキ

11:30 A.M. 車両及び抗議者の排除が終わり、拘留されていた人たちも解放された。同行した若松(次号担当者)もその中に。「1時間30分もの間苦勞でした。おかげで工事を遅延させました」。リーダーはスピーカーを手に終結を宣言し「明日もまた運動を展開する」

その後幾度か訪れたウチナーの風景は変化し続けた。それは都心の経済振興を代表するマーカーットの風景であり、私たちが住む都市と相似する。しかし、今も沖縄の空に戦闘機が飛び、地に広大な米軍基地が存続し、人は大きな力に立ち向かう。生きた現代史そのまゝの風景は今も不変だ。国は徒手空拳の沖縄に、権力の威を演出するだけである。

変わらない風景

とアピール。やつと救急車もやってきた。道路を占拠するすべての車両を道路端に移動させた機動隊は、数台の護送車及び10台の砂利積みタンクカーや工事車両を、ヘリパッド計画地点に移動させはじめた。抗議者側は機動隊および、工事関係企業へ激しい怒りの声を炸裂させた。

文責:佐々木 敏明



みんながみんな ver.1.1

教育に取り組んでいるのは学校だけじゃない!小中高のほかにも地域の教育事業で活躍する団体・施設・仕組みを紹介していきます。

16時間目: こども食堂サミットin関西

親の帰宅時間が遅い
こどもの
孤食
親が料理経験がない
レパートリーもない
簡食
少ない ひとつきあい - 多い
外食・コンビニ弁当・内食・あたたかいごはん

かっこうにいきづらい
社会からの孤立
おとなとのであいがすくない
食の偏り
賞味期限
加工食品
あなたはたいせつな人
わたしの**居場所**
サードプレイス
誰かと一緒に食べる
つながりづくり
近所のおばちゃん
近所のおっちゃん
子育てに追われて
いきぬき
補給・食事
栄養バランス 親の



こども食堂
サミットin関西

日時 2016年9月10日(土)
13:00~16:00(開場12:30)
会場 大阪府社会福祉協議会・研修センター5階
大会議室(大阪市西成区出船2-5-20)
パネリスト にしなり居場所スマイル ゆーとあい
(大阪市西成区出船2-5-9パークコート1F)

サミット当日の資料

会場は大盛況
9月10日(土)13時から、大阪市社会福祉研修情報センターで、「こども食堂サミットin関西」が開催されました。募集を開始すると、瞬く間に定員がいっぱいになるなど、「こども食堂」に関心を持つ方がたくさんおられました。そして、当日は鳥取や富山など遠方から来られた方、テレビ2局や新聞3社など、用意していた席は満席になりました。

**困っている子どもを
ほっとけないのが共通点**

横関西成区長の開会あいさつの後、東京の「こども食堂ネットワーク」の栗林知絵子さん、「こどもの里」の庄保共子さんから第一部として記念講演が行われました。栗林さんが活動を始めたのは、ある子どもとの関わりがきっかけでした。「ご飯を食べべていない」「勉強がわからない」など、子どもが困っていることを1つ1つ応援する取り組みを現在も続けています。庄保さ

んは、学生時代に釜ヶ崎にボランティアに行った時の子どもたちの目の輝きに魅かれて、現在まで約50年間活動を続けています。日雇い労働で生計を立てる狭い家の中で、子どもはお腹が空いても「お腹が空いた」と言えない状況に置かれます。そんな子どもたちのために真っ先に始めた活動は、子どもの遊ぶ場所・居場所をつくることでした。そんな活動のいまを記録する現在上映中の映画『さとにきたらええやん』のダイジェスト版も流されました。講演さ



会場いっぱいの参加者

れた2人とも、困っている子どもたちをほっとけず、まずやってみるというのが共通点でした。
ネットワークを強めて、子どもの居場所をもっと増やしたい

休憩をはさみ「にしなり☆こども食堂」の川辺康子さんから活動報告がありました。川辺さんも、1人の子どもの関わりの中で、3年前にこども食堂を始めました。当初は週1回でしたが、子どもとの関わりを深めるために、2年目からは週2回行っています。毎回30~50人が参加していますが、ボランティアがいらない日もあり、その時には遊びに来ている子どもたちに手伝ってもらうこともあります。このように日々のやりくりで一所懸命です。ただ、活動を応援してくれる様々な方をネットワーク化すれば、他のところにも子どもの居場所をつくることのできるのでは、何とか頑張りたいとのことでした。

どんどん広がれ!こども食堂

続いて、すでに活動している、またはこ



シンポジウムのパネラー

れから始めようとしている5カ所のこども食堂、各地に食材を提供しているフードバンク関西の活動紹介がありました。それぞれに切実な設立理由があり、活動している食堂でも課題を抱えておられました。しかし、発表された団体からは、何とか子どもを支えていきたいという気持ちが伝わりました。意見交換では、居酒屋の店長や明石市長からも「こども食堂を支えたい」との意思表示がありました。

レポート... 沖田一志
寺嶋公典

[寺嶋公典] 流れの中で、大嫌いな絶叫マシンに乗ることになった。安全カバーが下りた時のテンションは最悪だったが、乗ってみたら意外に楽しめた。知らない間に、大嫌いではなくなった。

[沖田一志] Androidを使い始めました。ちなみにiPhone歴は7年。スマホを使ってる人が多いからか、ITを仕事にしてると頻繁に質問を受けます。Androidの質問は分からなくて困ってたんですよ。

居場所づくりの第一歩やで「こども食堂サミットin関西」



(左) 住吉公園の植栽管理 (右上) 清掃訓練 (右下) 外部講師によるビジネスマナー講座

働く喜びは「お金」だけではないとはよく言いますが、やはり、働くことの対価として1円でも多くいただけたとやりがいや喜び、自己肯定感の向上につながります。単なる作業ではなく、工賃アップに向けた「しごと」として、「選べる」ことを大切に、清掃、植栽管理、売店での接客販売、受注加工作業などバラエティー

- ① “お金”も働く喜び
- ② “選べる”しごと
- ③ “自分らしく”働く場の提供

就労継続支援B型事業所 「えるえる」の3つのこだわり

また、就労移行支援事業所は利用期間が2年間と決められています。この限られた大切な時間の中で、多くの体験を通じた学びを提供し、それぞれが「就職」という目標に向かって一歩ずつ着実に進めるようなよりよい型のサポートに取り組んでいます。

『なび』をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

一般社団法人エル・チャレンジ VOL.30 多機能型事業所「えるえる」

えるえる
LABOR&LEARNING

3つのエル・チャレンジを知っていますか?「施設なき授産」を合言葉に、公共施設の清掃現場を知的障がい者の就労訓練に活用して17年。いまは事業協同組合と2つの一般社団法人が、エル・チャレンジとして活動しています。今号から連続で3つの“エル”が登場します。1つ目の“エル”は(一社)エル・チャレンジ。運営する多機能型事業所「えるえる」を紹介していきます。

「えるえる」は就労移行支援と就労継続支援B型の多機能型事業所です。そのコンセプトは、「Labor(労働)」と「Learn(学び)」の場を提供することです。事業所をただの「福祉の場」として捉えるのではなく、「就職を目指す学びの場」として、障がい者をはじめとする就労困難者の社会人・職人としての自立をサポートし、福祉でも労働でもない第3の道「ソーシャルファーム」を目指しています。

就労移行支援事業所 「えるえる」の3つのこだわり

- ① “はじめの一步”は
ビルクリーニングで
- ② “社会”の中で訓練を
- ③ “就職”へのサポート

ビルクリーニングは、清掃会社への就

職ということだけでなく、就職を目指す「はじめの一步」としても最適です。訓練のために特別に用意された現場ではなく、実際の現場「社会」で訓練を行うことで、「就職して働く自らの姿をイメージできる」「就職に必要な体力・集中力・応用力などが自然と身につく」「あいさつ・金銭感覚・対人マナーなどの社会的スキルが身につく」といった効果があります。



実際の現場で訓練



余暇活動

えるえる

〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35
大阪市教育会館
TEL: 06-6941-4510 FAX: 06-6920-3522
URL: <http://el-challenge.com/el/index.html>

に富んだメニューを用意しています。また、どんな障がいがあっても「自分らしく」働ける場があることは、生活を豊かにします。必要な福祉的なサポートのもと働く機会を提供しながら、就職へのチャレンジも応援しています。

文責…堀川 大介



【谷口円】友人にホテルの宿泊券をもらったものの旅に出る時間がなかったので、電車で30分の近所のホテルに1人で泊ってみました。よく分からない贅沢感がありました。



【田岡秀朋】新今宮駅周辺がホテルの建設ラッシュを迎えている。この先1年で4軒が建設されるそうだ。ホームからの岩出和也さんの看板も見納めか。



【飯島照喜】19月の初旬に群馬県の伊香保温泉へ。なんと大阪から東京経由で4時間半。なぜかみな東京を中心とした路線。副首都大阪は、はるか遠くへと実感。

今月の花:インパチェンス

花言葉「豊かさ」
「鮮やかな人」

鮮やかな花の色や、次々に開花する豊富な花の数から花言葉ができました。



つらい…またやさしくて、力の強いまじめなひとがいなくなりました。結核の治療をしながら、ボンで働いていました。ある日の朝、突然来ませんでした。すぐに家に行きましたが、家のカギを玄関の上において姿がありませんでした。福島原発の仕事へ行きたがっていたので、たぶん「放射能を浴びて病気を治すために」行ったのだと思うようにしました。悲しい。(なんばひとみ)

hidarimaki



映画「シン・ゴジラ」のシンとは、新や進化のシンではなく、神や心、真相、真実のシンでもない。S-I-N(パチ当たり)ナノだ。

それがあかるい三日月があらわれた

輝きでまけぬ月下の火木星

53年目のディラン
戦争の親玉聴くわれ七十一の盆

炎暑も夜半にはこうろぎ鉦叩き

われ線香に酔い蚊蠅らの悪寒知る

やんばるの森で
かりゆしに蜘蛛描かれて兵器満つ

い湯かげん

「地域」と「流域」を結ぶのが自治体

大阪の泉佐野市は、就労支援カレッジ事業と称して、青森県の弘前市のリング園に若者を送り出している。就労経験の少ない若者等への就労支援による労働力の底上げと、農業従事者の担い手不足の解消や農業の6次産業化の促進、さらには支援が必要な社会的漂流層がいる都市部から泉佐野市、泉佐野市から弘前市への就労や移住を促進するというユニークな取り組みだ。この両市と、介護職へのシングルマザーの移住転職に取り組む島根県浜田市の三市長が呼びかけて、一般社団法人・生活困窮者自立支援全国ネットワーク内に「自治体連携推進会議」が設置されるそう。

ボクは、自分でも古くから言い続けてきた「住み続けられる地域づくり」のフレーズに、途中から何となく違和感を感じ、「地域」もあるが「流域」もあるとダジャレてみた。介護を受ける高齢者は「定住」しているが、介護を提供する雇用はいま「流動化」している。介護保険は介護の社会化をもたらしたが、専門性を加算しない報酬制度が災いし、「上がらない賃金」が転職ミスマッチを引き起こし、「悪い(不利益流動化)」になっている。公共サービスも裾野を広げているが、価格偏重の競争入札による「上げられない賃金」で、せっかくの雇用創出も持続性がない。この介護や公共サービスは、広い意味

では「ソーシャルマーケット(簡単に言うと、株式会社じゃない経営体による社会益の高い生活関連産業)」と称される成長産業だ。自治体は、この成長産業の「地域」だけでなく「流域」においても重要なポジションを占めているのだが、「あまねく公平」とか「市場競争への不介入」というドグマがあって、貧困(福祉)のその先にある産業労働市場に立ち入ろうとしてこなかった。

実は、生活困窮者自立支援法の肝は「分権」にあり、「中間的就労」は産業労働市場に橋を架けようとしたのだと思う。ボクは、夕張市を視察した時に、札幌市に転出した夕張市民が子育てNPOを立ち上げて、財政破たん人口減少に苦しむ故郷にUターンし、夕張市が廃校となった学校を提供しているのを見て、これが始まりになったらと思った。実際、弘前市や泉佐野市や浜田市が動き出した。働いてほしいリング園と働いてみたい都市の連携、札幌からソーシャル・マーケットで漕ぎ出

して再び夕張に里帰りする、その交差点に自治体(自治体共同)という港があったら、どんなにありがたいものか。船には修理用ドックが必要のように、地域と流域を結ぶ就労支援(中間的就労)は欠かせない。

「コミュニティ」を和訳するのに、「地域」だけじゃなく「流域」とも解するのは、言葉あそびが過ぎるか。自治体あるいは自治体を、受益と負担の二分法で見ると、想像力が乏しすぎるのではないか。むしろ、自治体は、消費者と生産者が重なり合った新しい事業体ではないか、そんなことを想像させる自治体連携が始まったと期待したい。



(株)ナイス代表取締役
富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「い湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[若松司] 日が傾くと秋を感じさせる季節となりました。夏が終わると、秋が来て、やがて冬が訪れる、というサイクルはいつまで続くのでしょうか。グローバルな気候変動が気になる季節の変わり目。

たの 3くふうたま

昼 間



自転車が好きで、自転車のことを考えてはきたけれど、あの楽しさを一口に伝えるのは難しい。だって「じてんしゃ」だもの。知らない場所に思いのままに～気が向いたら是非!! (安田拓也)

ことば
その①

同じアパートに住む、あるおばあちゃんは顔を合わすといつも皆に人懐っこく声をかけてくる。僕には「自転車ばかり乗らんと、歩かなあかんで〜。歳取ったら歩けんんで〜。気を付けていってきいや〜。」って。おせっかいだけど、自転車にまたがるときにふと思い出す。たまには歩かんと、と。

その小さなおばあちゃんは、よく木陰で座って人の往来を眺めたり、日影をなぞりながら杖も持たずに、ゆっくり歩くのをよく見かける。「家の中にいたらボケてまう。カラダ動かして誰かと話してんと、夜が眠れんなるからな。」って。

世話焼きおばあちゃん。会うたびにいつてらっしゃい、おかえりを言ってくれるその人はいつから一人だろうか。きっとその人は、小さな幸せに気付き、何かを伝えたくて。

なび 10月号(vol.116)
発行日:2016年10月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
発行人:代表取締役 富田一幸

住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:寺嶋公典
編集:飯島照章、沖田一志、佐々木敬明、田岡秀朋、西田吉志、安田拓也、
若松司(あいうえお順)
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

にゃい 飯ユラン

メシ

7軒目

『釜揚げうどん一紀』



ミシュランならぬ“飯ユラン”。匿名でなく飯島(だから飯(メシ)ユラン)が「店主がおもしろい」、「店の客が楽しい」、「料理が、味がおいしい」の3つの「い」を基準に、西成区内の飲食店などを紹介します。



私は関西人、“うどん”が好きだ。うどんと出汁、双方に楽しみ方がある。うどんが主役とすれば、出汁は脇役、いやいやどちらも主役か、双方がまざり合って、さらにおいしさの魅力を引き出す。そこに薬味がまたちがった味を演出する。

正午きっかりに『一紀』へ。テーブル席に着き釜揚げうどんを頼むや否や、客がドヤドヤと入ってきたので、席を譲ってカウンター席に。人気あるんだなあ。出汁に次いで釜揚げが。薬味の生姜は自分で擦り下ろす。くなれば追加もできる。

まずは見た目。うどんには細麺や太麺などいろんな種類があるが、一紀は手打ちの平麺。麺は細からず太からず、乳白色。もちもち感やコシの強さを勝手に思いこんでいたが、期待は裏切られた。「口あたりは一言でいえば、やさしい。フワッとしながらも、コシの強さが芯に残っている」。“手打ちうどんは生地の出来栄えと気温によって微妙に変わってくる”(店主の菊川勇紀さん)。出汁も大阪の昆布、関東の鰹、讃岐のいりごと大別されるが、ここでは昆布、うるめ、めじた、煮干しを調合しており、「濃くもなく、薄くもなく、そして多少の甘味がある」。うどんづくりは繊細なんだな。出汁の甘味と薬味のネギ・生姜、それらがうどんに絡

み合って微妙な感触が口に広がる。「うまいやん」。

一紀は開店して5年。“工場をリーマンショック時に退職、八尾の釜揚げうどん専門店が1年間休業”して今日に至っている。“休業期間は無給。退職金で食いつないだ。最初の1週間はひたすら何もせずに見とくだけ。それから店の掃除、徐々に麺、最後は出汁づくりへ”。工場からうどんづくりに転職とは、いやいや大きな人生の転換、何故?“もともと飲食には興味があった。たまたま誘われて入ったのが釜揚げうどんの専門店。これがなんととうまかった。早々に会社を辞めて、その店に修業に”。なんと、うどんが人生を変えたのだ。

店主のおすすめは、“やはり釜揚げうどん、でも店の一番人気はカレーうどん”。10月頃から鍋の予約が入ってくる。湯気が立つほど、西成でも活気、人気のある店だ。

釜揚げうどん一紀

場所:西成区南開1-6-10

電話:06-6568-1919

営業時間:平日11:00~14:00、18:00~21:00(水休)

日曜日7:30~9:45、11:00~麺切れるまで

※麺切れしだい閉店



あとがき

暑い夏もおわり季節は秋になりました。この季節、暑がりな僕は毎年服装に悩みます。本当はTシャツだけで過ごしたいのに無理をして上着を羽織るから汗だくになってしまいます。服装といえば、今年で33歳になりますが、最近は20代の頃のように買い物に行かなくなるし、雑誌をみることもなくなったからどんな服装が良いのか迷子になっています。

(西田)